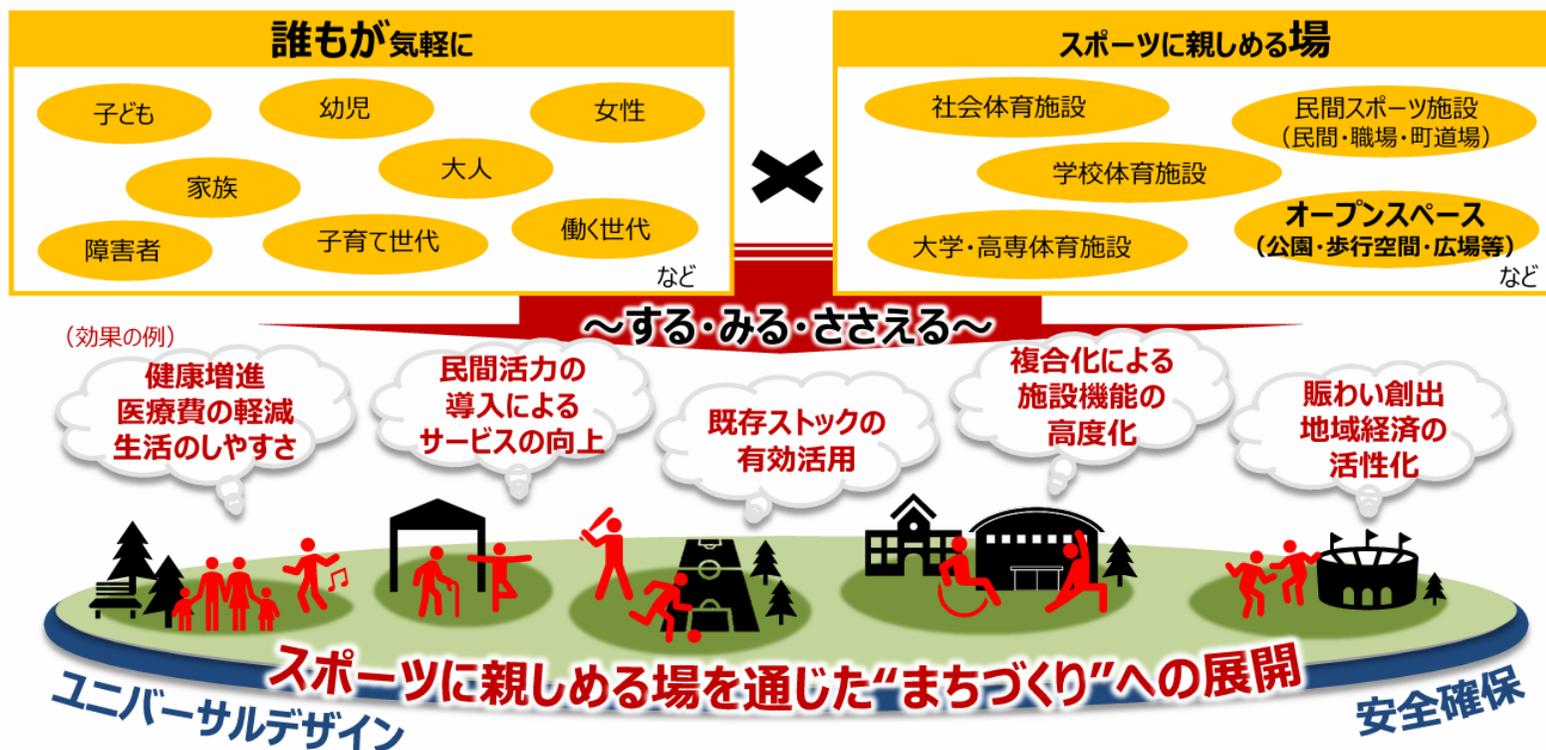


施設の有効活用方法等について

1. 課題解消に向けて・・・

「量」的充実に向けて

多様化するスポーツニーズや、気軽に誰もが利用できる施設の充実等が必要であり、スポーツが気軽にできる場としての公園、広場、緑道、学校等のオープンスペース等、施設以外にもスポーツができる場を住民ニーズに応じて知恵と工夫により創出する必要があります。



出典：令和5年度オープンスペースの活用等による誰もがアクセスできる場づくり促進事業 成果報告書

こうした課題解消に向け、具体的な取り組みとして、①学校体育施設の活用、②民間スポーツ施設の公共的活用、③既存施設、オープンスペースの有効活用などを推進することが重要になってきます。

2. 学校体育施設の有効活用に向けて

学校体育施設の有効活用について

学校体育施設の活用については、これまでも学校施設開放事業として実施してきたが、スポーツ実施率の向上を図るため、今後は、地域住民の最も身近なスポーツの場として一層気軽に利用できるようにしていくことが求められていることから、「学校体育施設の有効活用に関する手引き」を参考に、再度、学校体育施設の有効活用のあり方を見直していく必要がある。

学校施設開放事業等の状況

(●…施設開放で使用中、○…一部、使用中、×…施設開放等を行っていない)

施設名称	バスケットボール	バレーボール	バドミントン	卓球	体操・ダンス	剣道・なぎなた・空手	柔道	野球・ソフトボール	サッカー・ラグビー	ローラースケート	グラウンドゴルフ	テニス	陸上競技	水泳	相撲	備考
市立小学校(17校) グラウンド、体育館、プール	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	○	×	・全校体育館空調導入予定 (R6、7年度)
市立中学校(8校) 体育館、武道場、テニスコート	●	●	●	●	●	●	●	×	×		×	○	×	×		・全校体育館空調導入予定 (R6、7年度)
市立高等学校(1校) グラウンド、体育館、テニスコート	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	○	×	×		・体育館空調導入予定 (R7年度)

学校体育施設は、「学校施設開放事業」の一環で、小学校では17校でグラウンドや体育館など多様な種目の実施に活用しています。また、中学校では現在部活動が行われているため、体育館・武道館のみが利用可能となっていますが、部活動の地域移行により、活用できる施設の在り方が変わることが予想されます。

2. 学校体育施設の有効活用に向けて

学校施設開放事業の概要

【目的】

学校施設開放事業は、社会教育事業の一環として、学校教育に支障のない範囲内において小中学校の施設を開放することにより、市民の健康・体力づくりならびに文化・教養の向上を図ることを目的としている。

【利用団体等】

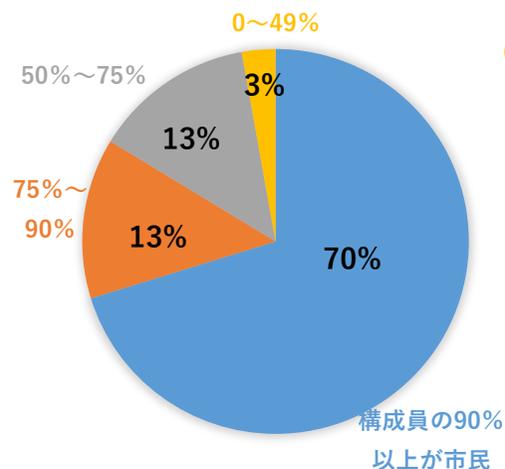
使用対象者：伊丹市に在住在勤または在学する者で構成する登録団体で責任の明確な者。
使用者数：6,005人（市民は4,771人）※届出書の構成員数
使用団体数：小学校⇒200団体
（小学生：106団体 中学生以上：94団体）
中学校⇒66団体
（中学生：25団体 小学生・一般：41団体）
種目別団体数：バレーボール⇒67団体
バスケットボール⇒44団体
バドミントン⇒19団体
サッカー・フットサル⇒18団体

※R6年7月時点の現状

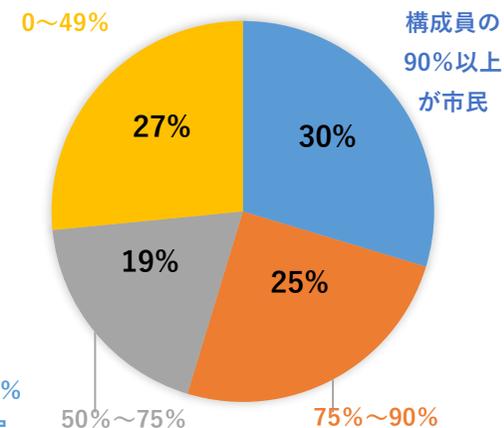
【その他】

実施主体：各学校の運営委員会が自主的に運営する。
遵守事項：各学校で異なる部分もあるが主なものは以下のとおり
①使用時間の厳守（使用時間は、片付け・退出を含めた時間）
②駐車場所、駐車台数等 ③施錠等確認 など
施設設備：設備についても現状有姿のまま使用することを前提としているため、機能向上は行わない。

①構成員の市民割合(小学校)



②構成員の市民割合(中学校)



学校施設開放は、地域住民の最も身近なスポーツの場として、多くの方に使用されている一方で、その構成割合をみると市民割合の低い団体もあります。

その他、運営委員会による管理の実施や、使用時間の厳守、施錠等確認などのルールを設け運用しています。

2. 学校体育施設の有効活用に向けて

部活動の地域移行

令和8年度より、部活動の地域移行を実施することを目標としており、その中で、中学生の活動日数の減少や、複数校での実施、多世代でのスポーツ活動になることから、中学校施設の活用可能性が高くなることが想定されます。

< 部活動の地域移行（保護者説明会配布資料一部抜粋） >

- 望む活動の形は、「勝利」「気軽」「友達」と多様です
- 週3回以下の活動を望む声が多くを占めます

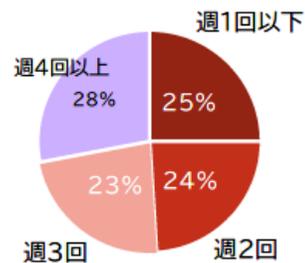
子どもたちが望む活動の形

Q これからのスポーツ・文化芸術活動についてどんな形のものがあればよいと思いますか。回答は3つまで選べます。



望む活動日数

Q どれくらいの活動日数がいいと思いますか。



実施主体は学校

学校部活動

学校施設

週5回以内

所属する中学校の生徒

部によっては部費・実費

学校の教員 部によっては外部コーチ



地域クラブ活動

学校施設・個別施設・文化施設

週1～5日(週によって柔軟に設定)

柔軟に設定(1校、複数校、多世代..)

運営に必要な最小限の範囲で会費・実費

地域の指導者

活動場所

活動日数

参加者

費用

指導者

令和6年5月「これからのスポーツ・文化芸術活動についてのアンケート」対象は伊丹市立小学校5・6年生(回答数3083)、対象者数は3649

出典：https://www.city.itami.lg.jp/material/files/group/52/ci-rifuretto-ver01.pdf

こうしたことから、これまでの学校施設開放のルールでは対応できなくなる可能性があることや、地域住民のニーズに応じて身近なスポーツの場を充実させること、スポーツ実施率の向上を通じて地域住民の健康増進を図ること、学校そのものが持つ地域コミュニティの核としての機能を高めること、中学生のみならず子どもたちのスポーツ活動の場として積極的に活用していくことなどの多様な観点を踏まえたうえで、制度の見直しを進めることが必要となってきます。

3. 民間スポーツ施設の公共的活用に向けて

民間スポーツ施設の公共的活用

本市においては、公共的活用（地域課題の解消等※に資する活用）を行っている民間スポーツ施設（福利厚生目的・営利目的施設）があります。民間スポーツ施設のうち、各企業の福利厚生目的施設は、一般市民の利用は不可となっておりますが、現在、住友総合グラウンドは、市・教育委員会が主催する各種スポーツ大会や教室などに限って利用することが出来ることになっております。

営利目的施設のうち、スイミング施設では、令和6年度より教育委員会主催の「夏季自由プール事業」で連携事業を行っています。

※主な地域課題・・・スポーツ実施率が低い、スポーツをする場や機会が少ない、多世代交流機会の希薄等

（●…市、教育委員会主催事業に限り使用可、×…施設利用不可）

施設名称		バスケットボール	バレーボール	バドミントン	卓球	体操・ダンス	剣道・なぎなた・空手	柔道	野球・ソフトボール	サッカー・ラグビー	ローラースケート	グラウンドゴルフ	テニス	陸上競技	水泳	相撲	備考
福利厚生目的施設	住友総合グラウンド	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●		陸上競技場、体育館、野球場、テニスコート、屋外プール
	クボタ伊丹総合グラウンド								×	×		×	×	×			陸上競技場、野球場、テニスコート
	三菱電機総合グラウンド								×	×		×	×				運動広場、テニスコート
営利目的施設					×	×							×		●		フィットネス、トレーニング、ヨガ、ボクシング、ゴルフ等

本市での取り組み事例



小学生陸上競技教室の様子



市民スポーツ祭・少年スポーツ大会
水泳競技大会の様子



夏季自由プール開催施設
(有岡スイミングスクール)

公共スポーツ施設と民間スポーツ施設では、その特徴（設置目的）に違いがありますが、ニーズがマッチする部分については、新たな施設の活用の検討を進めるほか、中学校の部活動地域移行の検討が進められている中、中学生が活動できる民間事業者の周知等、民間事業者が主体的に地域課題の解消等を行う場合の情報提供についても検討を行っていく必要があります。

4. 既存施設やオープンスペース等の活用に向けて

既存施設やオープンスペース等の活用

既存施設の更なる活用については、市が保有する他の施設利用や、スポーツ施設敷地内の空きスペースの活用等を行っています。公園施設におけるランニングコースの設置や、三軒寺前スペースでのスポーツイベントの開催など、積極的にオープンスペース等を活用しています。

本市での取り組み事例



三軒寺前広場を活用した
ITAMI3×3BASKETFESの様子



瑞ヶ池公園内に設置した
ランニングコース



スポーツセンター前広場を活用した
スケートボード広場の様子

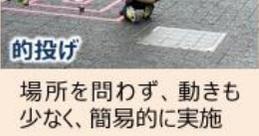
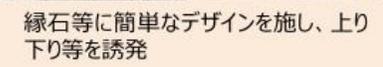
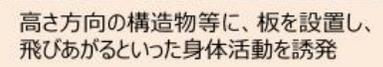
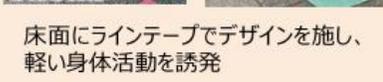
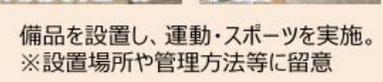
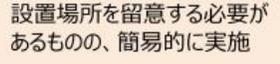
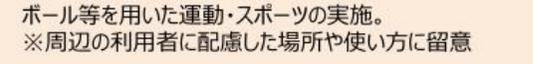
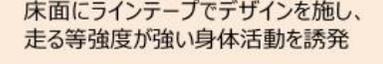
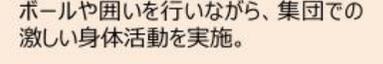


昆陽池公園広場を活用した
SC21モルック大会の様子

既存施設やオープンスペースの更なる活用については、新たなアイディア等の知恵と工夫が重要であることから、実施までの検討プロセスや空間を活用した取り組み事例等を参考に、新たなスペースを活用できる仕組み作りや情報提供が重要となってきます。

4. 既存施設やオープンスペース等の活用に向けて

参考：空間を活用した取組の検討事例

		＜設置難易度＞				高		
		易		高				
弱	〈身体活動強度〉							
								
								
								
								
								
強								